2025年度「NPO法人・礎の石孤児院」活動報告

認定NPO法人「礎の石孤児院」の活動は、2025年度においても大きく前進いたしました。
特にザンビアでは、首都ルサカ市内のスラム地区の子どもたちのために開校したプライマリースクール（小学校・100名）と、ルサカ郊外に開校したセカンダリースクール（（中高等学校・中学19名、高校11名）への就学支援が、本格的に進められております。
また、礎の石孤児院の支援団体である（株）「関西エンジニヤリング」からのご寄付で、ルサカ郊外の セカンダリースクールのそばの土地（1,800平方メートル・約550坪）を購入いたしました。
また、公益財団法人「味の素ファンデーション」の「食と栄養国際支援プログラム」から助成金（2026年4月から3年間で総額5,974,200円）を受けることになったので、セカンダリースクールそばに購入した土地で、「学校農園を通じた持続可能な給食モデルの開発と微量栄養素欠乏改善（ビーツ栽培）」というプロジェクトに取り組むことになりました。

また、インターネットを用いての広報活動も大きく進んでいます。
ホームページや、インスタグラム などのSNSを用いて、また、毎月のニュースレター等を用いて礎の石孤児院の働きを多くの方々に知っていただくことが出来ました。

・国内の活動

4月　＊礎の石孤児院の理事会をオンラインで開催し、総会の議案を承認した。
＊寄付のプラットホーム「Congrannto」を導入し、クレジット決済、Apple Pay 、銀行振込が使えるようにした。

6月　＊第24回NPO法人「礎の石孤児院総会」をオンラインで開催した。

8月　＊寄付のプラットホーム「Congrannto」でpaypayが使えるようにした。
＊宮崎市の支援者の方が、礎の石孤児院チャリティライブを開催してくださった。

10月　＊（株）「関西エンジニヤリング」からザンビアへ400万円、カンボジア孤児院へ100万円のご寄付があった。

11月　＊（株）「関西エンジニヤリング」からのご寄付で、ザンビア・ルサカのセカンダリースクールのそばの土地1,800平方メートル（約550坪）を購入した。
＊ブラジルの松本弘子さんが日本に一時帰国した。

2026年

1月　＊東京・原宿でチャリティ路上ライブを行い、募金73,000円の募金が集まった。

3月　＊礎の石孤児院の支援団体であるNPO法人「ワールドサポート21」のチャリティパーティで、真境名総主事が礎の石孤児院の活動について報告した。
＊Cornerstone of Hope ザンビアは、公益財団法人「味の素ファンデーション」の「食と栄養」国際支援プログラムから、「学校農園を通じた持続可能な給食モデルの開発と微量栄養素欠乏改善（ビーツ栽培）」のために、助成金（2026年4月1日から2029年3月31日まで3年間、総額5,974,200円）を受け取ることになった。
＊日本に一時帰国中だったブラジルの松本弘子さんがブラジルに戻った。
＊ご支援者の方がクラウドファンディング「ザンビアの子どもたちに”一人一冊の教科書”という”あたりまえ”を」を立ち上げてくださり、集められた募金226,757円を寄付してくださった。

・カンボジア孤児院の活動

4月

＊2025年1月~3月までの活動報告書と会計報告書を社会福祉省3ヶ所、プノンペン市に提出した。

＊ソティヤが歯医者の求人があり面接に行ったところすぐに仮採用となり働き始めた。

＊ノエが、政府機関が主催している職業訓練でパン作りを学び始めた。

5月

＊ LN がライトハウススクールの試験を受けて小学2年生クラスに入れて頂くことになった。

＊チャントムが孤児院を訪問してくれてジュースの差し入れてくれた。

＊政府機関にメールで2024年の会計報告と2025年の予算書を送った。

6月

＊ナオミが学校から指定された研修先で2週間のインターンシップを終了した

＊パン作りを学んでいたノエが、市内にあるカフェでスタッフ補助として職業練校から派遣されてパートで働くことになった。

＊カンボジアの子どもの日にチャントムとチャンが差し入れを持って来てくれた。

＊就職フェアーがあると聞いたので、スタッフが同行して T と TR が参加した。

7月

＊社会福祉省(3ヶ所)とプノンペン市に2025年 4 月~6 月までの活動報告書と会 計報告書を提出した。

＊トゥールコーク地区に申請していたプノンペン市に提出する書類を出して頂き受け取ったので、プノンペン市に提出し受理された。
プノンペン市から社会福祉省宛に出して頂くサポートレターの為。

8月

＊社会福祉省に登録更新の為の申請書類を提出した。

＊社会福祉省にNGO更新のための申請書類を提出した。

＊プノンペン市と近隣の政府機関から4人の方々が、視察に来られた。
この視察は、プノンペン市にお願いした社会福祉省宛のサポートレターを出してもらう為孤児院のチェックの為来られた。その後、サポートレターを出していただけることになり、プノンペン市より受け取った

＊ プノンペン市の視察により指摘された孤児院の電灯交換を行った。

＊PNが後期試験に合格して9年生に進級した。

＊昨年高校卒業試験に不合格だったノエが、再度受験して合格した。

9月

＊社会福祉省に、プノンペン市からのサポートレターを提出した。

＊子ども達とスタッフ達と一緒に、地方にあるファームに出掛けた。

＊ソティヤが本採用になったので、孤児院から自立の為の手続きを行なった。

＊スタッフのスウンの奥さんから、孤児院の子ども達にとカンボジアカレーの差し入れをいただいた。

＊パニットと家族、チャントム、ソティヤがそれぞれに差入れを持って来てくれた。

10月

＊ メソジストスクールの新学期が始まった。

＊福祉省から3人、近隣の政府機関から3人、計6人の方々が視察に来られた。
8項目の指摘事項があり、今後対応して行くことを話した。

＊ 孤児情報が政府機関から入り、8歳の男の子を受入れた。

＊ ノエが学んでいる職業訓練校でパン作りの試験が行われた。

＊ 社会福祉省(3ヶ所)とプノンペン市に2025年7月~9月までの活動報告書と会計報告書を提出した。

11月

＊ 政府機関から入っていた3兄弟(5歳、3歳、1歳)を祭日の期間突然預かり、その 後受け取ることになった。

＊近隣の政府機関であるトゥールコーク地区から3人とプノンペン市から2人、1年に1回行われている孤児院の視察に来られた。

＊日本の NPO 法人コミュニティ時津から連絡があり、今回は来れ ないということで、代わりにご支援金をいただいた。

12月

＊ノエが高校卒業試験に合格したので、合格証明書を政府機関に受取りに行った。ノエはパートで行っていたカフェを11月で終わりにして、数ヶ月前から孤児院スタッフと示されていたので本人に確認を取ったところ働きたい希望があり、仮採用で3ヶ月間働くことになった。

＊前田の NGO ビザ更新書類が受理されたので、外務省にパスポートを提出した。 その後新しい NGO ビザとパスポートを受取った。

＊既に受入れていた3兄弟の為の、政府機関との受入れの為の手続きを行った。

＊ 他団体で働いている日本人の方が、日本から来られた眼科医の方2人と一緒に来て下さり、子ども達とスタッフ達の目の検査を行って下さった。

＊スタッフ達が BBQ を計画してくれて、孤児院卒業生達も数人参加した。

2026 年

1 月

＊元孤児院スタッフの夫妻と子ども達が来てくれて、米と野菜を持って来てくれた

＊ソティヤを通してクリスチャンの方より300kgの米のご支援を頂いた。

＊前田分の外務省から発行して頂いている ID カードの更新を行い、短期間で ID カードを受取る事が出来た。

＊社会福祉省(3ヶ所)とプノンペン市に2025年10月~12月までの活動報告書と会計報告書を提出する。

＊8歳の男の子 TH が、ライトハウススクールの試験を受けて、結果がよかったので2年生のクラスで学ぶことが出来るようになった。

＊ LN と VD が、学校から無料で午後のクラスで学べるようになった。

＊ 孤児院卒業生のサヴィーが家族で来てくれて、おやつや衣類など沢山持って来てくれた。

2 月

＊ 3兄弟の長男で5歳の CH の幼稚園入園手続きを行い、入園した。

＊ 社会福祉省からの指摘の1 つに、外の鉄ドアを高くするということだったので、作業する方々に来てもらい、新しい鉄ドアに交換作業が行われた。

＊ 孤児院卒業生のサヴィーとご主人のご両親も来られて、子ども達へのおやつや沢山の衣類などを頂いた。

＊ 孤児院卒業生のスレイレヤのご主人が楽器をいろいろできるということで、お願いして週1回来てもらえることになった。スレイレヤは、英語を教えてくれることになった。

＊ ナオミが大学生と卒業生も対象に奨学金を出してくださる団体があるという情報を学校から受け取り、申請書を提出した。

＊ 大学の日本語学科で5年間学んだナオミの卒業式が行われた。

3 月

＊ナオミが提出した奨学金希望者の内まず7人が選ばれて、ナオミもその中に選ばれていたので、インタビューの為日本の団体から学校に来られていたそうで、ナオミも学校に行ってインタビューを受けた。（結果は不合格だった）

【現在の孤児院で生活している孤児達の人数】

男子10人、女子9人 計 19人(ノエは入れていません)

{内訳}

<未就学児>男子3人、女子0人

<幼稚園> 男子1人

<小学生> 男子4人、女子5人

<中学生> 男子0人、女子1人

<大学生> 男子0人、女子1人

<職業訓練校生他> 男子2人、女子2人

*これまでに受入れた孤児数 49人(男子30人+女子19人)
*孤児院から自立した子ども達の数 30人(男子20人+女子10人)
*現在孤児院にいる子ども達の数 19人

カンボジア孤児院　前田克子

・ブラジル孤児院の活動

4 月から 2026 年 3 月まで 月刊紙のニュースレターにイラスト掲載
11月　日本に一時帰国
12 月　東京・高円寺で報告会
2026 年
3 月　　長野・南小谷村で報告会
　　休暇を終えブラジルに戻る

　　などの活動を行いました。

松本弘子

・Cornerstone of Hope ザンビアの活動

4 月
・学校学期間休校
・21 日～5 月2日5年生補習授業
・19 日夜間に侵入者にソーラーパネル等が盗難(後日寄付により再購入と再設置

夜間警備員の雇用開始。

5 月

・2学期開校

・フレンチスクールにて週一の日本語教室開始

・アメリカンスクールの高校 3 年生 2 人のインターンシップ受け入れ(3 ヶ月間)

・フレンチスクールとの小学 5 年生授業交換

・フレンチスクールとの共同<アフリカ自由の日>催事

・中高生週一のフランス語教室再開

・CSR（企業の社会的責任）活動で文化交流を行ってきた企業「Agoda」から社員1名の訪問を受ける。数日間のボランティア活動。

6 月

・フレンチスクールにて寄付を募るクロスカントリー大会開催 (後日全生徒に防寒着購入)

・フレンチスクールと小 3 年生の授業交換

・WTP (World Theatre Project) と子どもたちへの映画鑑賞会開催後の報告会

・ここ数年毎夏スタディツアーで訪れる（株）「タイガーモブ」との準備ミーティング開始

7 月

・JICA の NGO 事業マネジメント研修オンライン参加

・（株）「タイガーモブ」夏期スタディツアーのための事前研修開始

・韓国の国際 NGO 「グッドネイバーズ」より全生徒に靴 の寄付を頂く

8 月

・夏期休校

・（株）「タイガーモブ」スタディツアー来ザ(18 日～29 日)。
小学校及び中高でプログラム

9 月

・2学期開校

・フレンチスクールと 3 年生交換授業

10 月

・ フレンチスクールと合同で国立博物館見学

・フランス大使主催スポーツ大会に参加。優勝する。

・独立記念日催事開催。他団体を招待

11 月

・ セカンダリースクールのそばの土地（1,800平方メートル）を購入。

・フランス大使館主催イベント　にてかき氷、手作り物品の販売

・青年海外協力隊員達による生理用布ナプキン作成講習

・青年海外協力隊員離任

12 月

・ 学校学期間休校

2026 年

1 月

・1 学期開校

2 月

・1、2 年生フレンチスクールとの交換授業

・（株）「鴻池組」よりオフィス家具贈呈

3 月

・ フランスから HP 作成者訪問

・味の素財団助成金契約

作成者　ムタレ桜子

・礎の石孤児院　フィリピンの活動

2025~2026 年度の学年は、就学支援生たちにとって実りある一年となりました。今年度は、実技課題、宿題、学校プロジェクト、調査研究、そして卒業論文などが重なり、非常に大変な一年でもありました。

昨年度も同様ではありましたが、今年度はさらに、地震、台風、祝日などの影響で、ほぼ 1 か月にわたり休校が続いた時期もあり、その負担は一層大きくなりました。悪天候のため授業が中止となり、子どもを迎えに来るよう学校から連絡が入ることもありました。仕事中に自宅で子どもを見てくれる人がいない家庭や、学校と職場が遠い場合、保護者には心配の種となりました。
就学支援生たちは、必ずしも十分な電子機器を持っているわけではありませんが、それでも努力し、成果を上げています。

40 年にわたる宣教の働きと、35 年にわたる礎の石フィリピン (教育支援プログラム)の歩みを通し、子どもたちの生活をより良いものへと導き、文盲をなくすための働きを進めてくることができました。

これまでに支援してきた子どもたち

1995 年 反政府兵士の遺児10 名
1996 年 Bangkal の子ども 5 名(卒業し、結婚)
1998 年 Maleta の子ども 4 名(卒業し、結婚)
2001 年 Ladayon 山地の子ども 計 80 名(卒業し、多くは結婚したと思われます)
2008 年 Smokey Mountain の子ども 55 名 46%:早婚のため senior high school を卒業できず 25%:廃品回収の仕事を選択 11%:移住および家屋の取り壊しにより、やむなく故郷へ戻る 5%:卒業し、結婚 12%:現在も自立して歩んでいます。

Suawanの子ども 26 名
(卒業。うち 4 名は大学に進学して学士号を取得。そのうち 1 名は教員免許試験に合格。また 1 名は大学を卒業しなかったものの、現在は事業を営んでいます)

Mahayahay の子ども 16 名
Calinan の子ども 9 名
Tacunan の子ども 4 名
Catalunan Pequeño の子ども 20 名

このように、合計 229 名が、皆様の寛大さとあたたかいご支援によって支えられてきました。どうかこれからも、助けを必要としている子どもたちを支えるために、私たちへのご支援を続けてくださいますようお願いいたします。

2026~2027 年度は、23 名の就学支援生が引き続き元気に、そして熱心に学びを続けています。
Smokey Mountain 7 名
Mahayahay 2 名
Calinan 3 名
Suawan 3 名
CatalunanPequeño 8 名
これからも皆様とともに、託された働きの道を歩んでいけますように。

教育支援プログラムの継続は、皆様からのご寄付によって支えられています。
今年度 2026~2027 年、子ども一人当たりに必要な金額は 249.56 米ドル、23 名分合計 5,739.88 と見積もっています。
この費用は、学用品、通学用の靴、かばん、制服の購入、また毎月の学校行事や学校プロジェクトへの必要経費に用いられます。いつもこの働きを支えてくださり、本当にありがとうございます。
皆様の存在は、私たちにとって大きな祝福です。
今後とも皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

礎の石フィリピン教育支援プログラム運営スタッフ
Eleanor V. Tilos

・ファミリーホーム開設及び支援に向けての活動

【6月9日 奄美大島在住の倉元さんとのミーティングを実施】
(メンバー;真境名総主事、高原牧師ご夫妻、倉元そのみ(奄美大島)、永戸マリヤ(四日市)、吉野浩美(敬称略))

・礎の石孤児院としてのファミリーホーム事業を始めるにおいての経緯の説明
・ファミリーホームはTLEA東京アンテオケ教会を土台とし、他団体の支援でなく、礎の石孤児院が主体となって活動していく流れの説明。

―倉元そのみさんより―
・ 奄美大島で乳児院に勤務していた経験がある。現在は保育の補助の仕事。
・ 過去には子育て支援のグループに加わり、子どものお世話をした経験がある。
・今後も養育されるのが困難な子どもを家庭の中に受け入れるなど、社会貢献したい。
・鹿児島県の里親制度事務局とのやりとりもあるので、さらに情報を受けてい きた　いと思っている。
・ファミリーホーム事業を担う責任者となる事は思いの中には無かったことであり、イメージがつかめないでいるし、自信がもてない。認識のずれをも感じてしまう。祈りつつ、一つ一つ調べつつ、動いていきたい。地元の人脈なども調べたい。

―今後の流れ―
・奄美大島での働きのためにさらにリサーチを進める(費用の概算も調べていく)
・奄美大島では、「ガリラヤの風」というファミリーホームが運営されている。 (元児童養護施設職員が立ち上げたファミリーホーム)

【郡山市でのファミリーホームの働きのために視点をおき、リサーチを進める】・今後、郡山市にてファミリーホームを運営するためのリサーチを強めていく方針が出される。

・郡山市谷島町ではNPO法人「ファミリーホームいぶき」が運営されている。(ホーム長1名、職員2名)
・ファミリーホームの住居は賃貸住宅でもOK. 空き家物件なども利用できる。

【備考】
2025年度 ファミリーホーム開設及び支援に向けての活動報告 (日本)

【措置費について】
里親の場合
・児童委託費として毎月里親手当が支給される。
・児童に対して、一般生活費として衣食住に係る諸費用、医療費、教育費が支給される
・0歳児から就学前は措置費が高い
ファミリーホームの場合
【事務費】・・・職員の人件費、事務の執行に伴う費用(月額保護単価×入所児童数)が支給
【事業費】・・・子ども達の一般生活費、医療費、教育費が支給